

「児童虐待防げ」草の根活動

児童虐待事件をきっかけに、事件が起きた地域の住民らが、虐待防止のための啓発や相談活動などを始めている。

東京都江戸川区では、今年3月、若者たちが「チームあさって」を結成し、虐待防止キャンペーンを行っている。1月に小学1年生の男児が両親による暴行を受け死亡した事件をきっかけに、同区を拠点に活動する民間団体「江戸川子どもおんぶず」(大河内秀人代表)が結成を呼びかけた。現在、10代から20代の高校生や大学生、会社員ら十数人が参加している。

不定期にミーティングを開き、虐待に関する勉強会や裁判の傍聴、児童相談所や子育て支援をする子ども家庭支援センターの見学などを行ってきた。力を入れたのが、18歳までの若者を対象にしたアンケート調



最初のころ、次の日程を「じゃあ、あさって」と決めたことから名前がついた「チームあさって」のメンバー

地元の事件きっかけ 住民ら啓発・相談

査。困った時に誰に相談するか、虐待を受けているかもしれない子どもを見つけたら何が出来るか、などの質問を投げかけ、高校生を中心に都内外から1023通を集めた。

回答から、子どもたちは困った時に学校や先生などには相談しようとはせず、友達同士で相談したり、支え合ったりしたいと考えていることが浮かび上がった。チームのメンバーは11月に熊本県で開かれる日本子ども虐待防止学会で、活動を報告する予定という。チームの活動を支援するソーシャルワーカーの荒田直輝さんは「子どもの声が、虐待のない街づくりに生かされればいい」と話す。

虐待防止のために住民が活動を始めるケースは各地に生まれている。

栃木県小山市の「カンガルーOYAMA」も、2004年に同市で起きた虐待事件がきっかけで結成され、電話相談や啓発講座などを行っている。活動は全国レベルの虐待防止キャンペーン「オレンジリボン運動」につながった。会長の大久保幸子さんは「生活に密着した草の根レベルの活動が、最も人の心に訴える。地域の取り組みが、社会を変えることにつながる」と話している。